

JA全農ウィークリー

2
面

マレーシア尿素輸入 累計200万トンを達成

8面



「受験生応援弁当」を開発した石川県立金沢錦丘高校の生徒たち(8面)



市場流通関係者らに厳寒期のトマトの食べ方を提案した主産県本部・県連合同試食会
(2面)



マレーシアからの尿素輸入累計200万トンの達成の記念式典で握手を交わすペトロナスケミカルのハムザ社長と久保省三常務(右)(2面)

石川県産食材を使用し地元高校生が考案
「受験生応援弁当」を発売

- 2 トマト主産県10県本部・県連が
合同試食会(園芸部)
- 3 畜産事業の研究最前線④
飼料畜産中央研究所
笠間乳肉牛研究室(畜産生産部)

- 4 JAズームイン(JA対馬)
- 5 県本部だより(神奈川県本部)
- 6 県本部だより(山形県本部)

- 7 青果情勢(園芸部)
- 8 JAタウンショップ紹介
JA全農かながわ

**Web版JA全農ウィークリーは
こちらから**



<https://www.zennoh-weekly.jp/>

News!



マレーシア尿素輸入累計200万トンを達成

尿素の安定確保に向け さらなる関係強化へ

肥料農薬部

マレーシア尿素の船積み作業



肥料農薬部は、尿素のサプライヤー（供給元）であるマレーシアのペトロナスグループとともに、2018年12月、マレーシア・クアラルンプールで、尿素輸入累計200万トンの達成を祝う記念式典を開催しました。

全農は1991年にマレーシア尿素の直接購入を開始して以来、輸入数量が累計200万トンに達しました。マレーシアの大粒尿素は、被覆尿素原料やBB肥料原料などに使用されており、農家の省力化による農業生産の維持・拡大に欠

かせない重要な窒素肥料として、取り扱い数量を伸ばしています。

式典にはマレーシアの関係者も含めた40人が出席。久保省三常務はあいさつで「これからも、肥料メーカーの高い品質基準に合った良質な尿素の安定供給のためにマレーシアの皆さまとの協力関係を一層強めたい」と述べました。

式典翌日には、ペトロナスグループがボルネオ島サバ州で2017年に稼働開始したアジア最大規模の尿素工場を視察し、日本の品質要求などを伝え、意見交換を行いました。

肥料事業においては高品質な原料の安定確保が重要課題となっており、今後その実現のため、サプライヤーとさらなる関係強化に取り組んでいきます。

News!



トマト主産県10県本部・県連が合同試食会

厳寒期の消費拡大へ市場流通関係者に温かいメニュー提案

園芸部



市場流通関係者らに厳寒期のトマトの食べ方を提案した合同試食会

トマト主産県では、トマトの消費が鈍くなりがちな厳寒期にもトマトを食べてもらえるよう、加熱調理するメニュー提案を行うことで消費拡大に取り組んでいます。

今回は、主産県10県本部・県連の担当者が参加し、各市場の売場にて市場流通関係者に「トマトのごまみそ汁」の試食品を配布し、普段とは少し違った食べ方を提案しました。

産地担当者の積極的な呼びかけもあり、開始早々から流通関係者に多数お集まりいただき、盛況のうちに終了しました。試食した方々からは、「初めて食べたがトマトの酸味と味噌（みそ）が合う」「生食も良いが加熱したトマトもおいしい」といった声が聞かれました。



試食として提供されたトマトの酸味と相性ばっちりの味噌汁

トマト主産県10県本部・県連（茨城・栃木・千葉・岐阜・静岡・愛知・福岡・佐賀・熊本・宮崎）は、1月10日に大田市場で合同試食会を実施しました。

畜産事業の研究最前線 4

畜産事業の研究を紹介する当シリーズ第4回は、飼料畜産中央研究所 笠間乳肉牛研究室です。茨城県笠間市にある笠間乳肉牛研究室では、乳牛や肉牛を飼養する生産者が直面しているさまざまな課題について研究を行っています。そして研究を通して、質の良い牛乳や牛肉の効率的かつ安定的な生産を実現できる技術の開発を目指しています。

牛に異変が起きた時にすぐ通知が届くシステムを研究

今、酪農界で特に課題となっているのが、生産者の長時間労働です。大規模化により飼養頭数が増える一方で、人手不



笠間乳肉牛研究室の研究員

足が深刻になっています。

研究室ではこの問題を、ICT技術を使って解決できないか

飼料畜産中央研究所 笠間乳肉牛研究室

効率的で安定的な生産を

実現できる技術の開発に取り組む

と考えています。研究室の牛舎にモニタリング用のカメラを設置して、牛の行動を記録。そして牛が発情や病気、けがの際にどんな特徴的な行動をとるかを解析しています。

この解析システムが完成すれば、生産者の牛舎にカメラを設置してもらい、牛が特徴的な行動をとった時には、すぐにスマートフォンに通知が届くとい

たサービスの提供が可能になります。生産者の方が牛舎から離れている時に牛に何か急変があったとしてもすぐに駆けつけられ、発情のタイミングを見逃すといったリスクも大きく減らす事ができます。

枝肉重量600～800キの大型和牛の生産研究を進める

一方肉牛については、枝肉重

に取り組んでいます。北海道にある全農ET研究所に、遺伝的に増体能力の高い牛を両親とする受精卵を作ってもらうように依頼。その受精卵から産まれた牛を研究室の牛舎で育てています。

ただしいくら遺伝的に増体能力が高くて、与える餌の量や栄養バランス、飼養環境が適切でない、その能力を100%

量が600～800キに達するような大型の和牛の生産研究



すべての牛舎にカメラが備えられており、事務所のモニターで牛の様子を観察できる

発現させる事は不可能です。そこで研究所では今、最適な餌の与え方や飼養環境についての研究を行っています。

また、よりやわらかい肉質の和牛の育成についても研究しています。これは消費者の嗜好が、サシよりもやわらかさを重視するようになってくるからです。研究所では餌の配合成分等を工夫する事で、その実

現を目指しています。

これらの研究が結実すれば、生産者は1頭の牛からより多くの肉を出荷する事が可能になり、しかもやわらかい肉を求めている消費者のニーズとも合致しているため、市場価値が高いものになります。

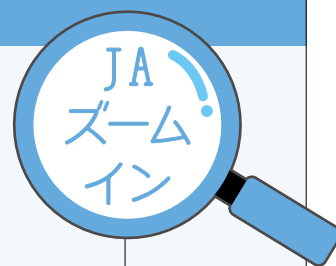
笠間乳肉牛研究室は、「生産者の課題解決に直結するテーマに取り組む」というその使命にぶれない研究を、日夜続けています。

【畜産生産部】

今回は、飼料畜産中央研究所 上土幌種豚育種研究室を紹介する予定です。（4月頃掲載予定）



繁殖牛舎の和牛。この牛を用いて飼養技術等の研究を行っている



昨年稼働の繁殖センター核に

繁殖雌牛飼育頭数・戸数増へ

JA 対馬 (長崎県)



概要		平成30年3月31日現在
正組合員数	1788人	
准組合員数	1930人	
職員数	86人	
販売品取扱高	5億8千万円	
購買品取扱高	4億8千万円	
貯金残高	157億4千万円	
長期共済保有高	1442億7千万円	
主な農畜産物	対州(たいしゅう)そば、シタケ、牛、アスパラガス	

JA 対馬は長崎の北部、九州本土までの直線距離約120キロに対し、韓国まで49・5キロと最も朝鮮半島に近く「国境の島」と呼ばれています。

行政、関係機関と連携し 肉用牛増へ支援スタート

JA 対馬は高齢化・離農

の進展で、繁殖雌牛飼養頭数・飼養戸数が平成20年度時の362頭・86戸から平成27年度には283頭・48戸まで減少しました。そこで県や市、各関係機関と連携し、平成27年1月23日に対馬地域畜産クラスター協議会を設立し、平成28年度から始まった畜産クラスター計画の一つとして、「JA 対馬繁殖センター」を建設することが決まり、平成30年4月から

稼働しました。

繁殖センターでは、①畜産農家から成牛の不妊治療・リハビリなどの申し出があった際に一時預かりし、畜産農家への労力支援を図り、余力を飼養規模拡大に充てる②島内や県内外家畜市場から子牛を購入し、人工授精後に初妊牛として畜産農家へ安定的な供給を行うことで子牛の生産性を高め、経営安定を図るとともに、畜産農家の技術向上と担い手の育成を図ることを目的としています。そして、5年後の目標として、JA 直営分を含めた繁殖雌牛飼養頭数を400頭、飼養戸数50戸を目指し、地域の肉用牛増頭に向けた支援を行い、子牛上場頭数の増加を図ることで、



抽選での選定方式となった入札会

現在休止している対馬家畜市場を再開することに夢をはせ、対馬地域肉用牛経営の活性化に寄与していきたいと考えています。

対馬家畜市場再開に向け 活気あふれる入札会開催

繁殖センターの稼働から、熊本県家畜市場で平成30年4月に8頭、6月に8頭、10月に4頭、吉岐家畜市場で8

月に5頭の子牛を導入し、11月には初の入札会を開催し、平成31年1月には2回目となる入札会を開催しました。初の入札会では、4月に導入された8頭のうち6頭が対象で、生産者約20人と各関係機関を含め、総勢40人が繁殖センターに集い、2回目も同様に7頭の入札が行われました。どちらも抽選での選定方式でしたが、当選された畜産農家の方も、残念ながら落選となった畜産農家の方も大いに盛り上がった様子で、活気にあふれたものでした。

今後、目標達成はもちろん、畜産農家の方の意欲向上に向けてさらなる努力を重ね、新規就農者の掘り起こしにもつなげていきます。



昨年稼働した繁殖センターの牛舎と導入した子牛

県本部 だより



神奈川県本部

生産と販売のマッチングで 新規品目・作物の生産振興 実需者ニーズに基づき新規品目を拡大

神奈川県本部「中央ベジフルセンター」は、県産青

果物を集荷し、ＪＡ直売所、生協、量販店などへ販

売する機能を持ちます。

同センターでは実需者ニーズに基づき、新規品目の生産振興を進め、農家手取りの安定・向上につながる取り組みを進めています。

二つの県産品を 組み合わせた 「こんにやくゼリー」

初の契約栽培で商品化された「こんにやくゼリー湘南ゴールド味」

同センターは、県内取引業者から、コンニャク芋の生産要望を受けたのをきっかけに、ＪＡいせはら管内の生産者２人と栽培契約を結びました。

商品開発にあたり、同県本部が販売する「湘南ゴールド果汁」の活用を提案。二つの県産農産物を活用した「県産こんにやくゼリー湘南ゴールド味」が

２０１７年秋に商品化されました。

同社が量販店などに販売した他、同センターがＪＡ直売所での販売やＪＡ組織購買への採用などで販売しました。

全量買い取りで ラッキョウ栽培拡大

同様の手法に基づき、酢漬けラッキョウの商品化にも取り組みました。ラッキョウ栽培は、鳥獣被害対策につながる期待もあります。

同センターは、全量買い取りや初年度の種子無料配布、栽培講習会の開催など、生産者が取り組みやす

い条件を整えました。

呼びかけに対し、県内８ＪＡ・４６人の生産者が応じ、初年度の２９年度は１５トを出荷。３０年度は３ＪＡ増えて、２２トを出荷目標としています。

収穫したラッキョウは、昨年１２月に「県産甘らっきょう」として商品化されました。販売先は、ＪＡ直売所や飲食店、ホテルなどです。

試作を繰り返し１２月に商品化された「県産甘らっきょう」



同センターは、今後も契約栽培の推進を通じ、農家手取りの安定・向上に向けた新商品開発や販売先開拓に取り組んでいます。

栽培講習会で、ラッキョウの出来栄を確認する生産者



神奈川県本部の中央ベジフルセンター



県本部 だより

山形県本部



新ブランド米「雪若丸」本格デビュー 特長とらえた戦略で販売拡大目指す

新CMやキャンペーン展開

粒感しっかりの
「雪若丸」JALの
ラウンジで採用

「雪若丸」の特長は、しっ
かりとした粒感とかみ応
え。ご飯一粒一粒を感じら
れる弾力がこれ
までにない新食
感で、カレーライ
スやチャーハン、
すしなどに合う
として売り出し
ています。

売れ行き好調
生産、販売量拡大へ

たことをアピールしまし
た。

テレビCMを中心に戦
略的PRもあり、30年度
の「雪若丸」の販売は好
調に進んでいます。山形
県は、平成31年産の作付
面積を前年比1000
増の約2700、生産
量を6000、増の約
1万6000とするこ
とを決定しており、今後認
知度向上とさらなる販売拡
大を目指します。

山形県が誇る「はえぬ
き」「つや姫」に次ぐ、県が
15年をかけて大切に育成し

てようやく完成した新たな
ブランド米「雪若丸」が平
成30年に本格デビューし、

全国に向けて広く
PRしました。

県やJAグルー
プなどで組織する
山形「つや姫」「雪
若丸」ブランド化戦
略推進本部は、「雪
若丸」を全国にPR
するため、テレビ
ドラマで大ブレイ
クした俳優の田中
圭さんを起用した
新CMを製作しま
した。テレビCM
を活用したプロ
モーションは、全
国的なブランド米
へ成長した「つや
姫」でも用いられ、
「雪若丸」も同様に



新CMに出演した俳優の田中圭さん(中央)を囲む吉村美栄子山形県知事㊤と長澤豊
JA全農山形運営委員会会長㊦

広くPRすることで知名度
向上を図るのが狙いです。
さらに、サッカーJ2
リーグ「モンテディオ山
形」やバスケットボール
B2リーグ「山形ワイヴア
ンズ」のユニフォームスポ
ンサー、JR東京駅や山形
駅ほかに見板やタペスト
リーを設置するなど、県産
米の知名度向上と販売拡大
に向けた取り組みを継続し
ています。



「雪若丸」の米袋

その効果とし
て、日本航空株
式会社(JAL)
の国際線ファース
トクラスラウンジ・サク
ララウンジで採用されまし
た。昨年11月1日から食事
で提供され、SNSで話題
の「JALオリジナルビー
フカレー」などでお楽しみ
いただけます。同日、東京・
銀座にある山形県のアンテ
ナショップ「おいしい山形
ブラザ」で記念イベントを
開催し、「雪若丸」の試食や
来場者へシート米のプレゼ
ントを行い、提供が始まっ



JAL国際線ラウンジでの採用が決まったことをPRした山形県
のアンテナショップ「おいしい山形ブラザ」でのイベント

[青 果 情 勢]

(園芸部)



野 菜

春野菜の入荷が徐々に始まる

概況

2月も1月に引き続き、パレシヨ・タマネギを除き、西南暖地・中京・関東産地を中心として出荷されます。

キャベツは、愛知・千葉・神奈川などが中心の出荷となります。年内前進出荷していたことと、低温・干ばつが影響して小玉傾向となっております。総体の出荷量は少なかった前年を上回る見込みです。

ハクサイは、茨城などが中心の出荷となります。好天だったため、大玉中心の潤沢な出荷となっております。総体の出荷量は前年を上回る見込みです。

レタスは、静岡・兵庫・香川・茨城などが中心の出荷となります。低温・干ばつの影響で小玉傾向の産地がありますが、中旬にかけて平年並みの生育に回復する見込み。出荷量は、少なかった前年を上回る見込みです。

ダイコンは、千葉・神奈川などが中心の出荷となります。露地作は好天から太物中心の出荷となっております。後続のトンネル作の生育は干ばつからやや遅れています。出荷量は、少なかった前年を下回る見込みです。

ニンジン、は、千葉・埼玉などが中心の出荷となります。太物中心の潤沢な出荷となっておりますが、中旬以降出荷は終盤を迎えます。出荷量は前年を上回る見込みです。

トマトは、熊本・愛知などが中心の出荷となります。出荷量は、前年並みを見込みます。

キュウリ・ナスは、西南暖地が中心の出荷となります。出荷量は前年並みを見込みます。

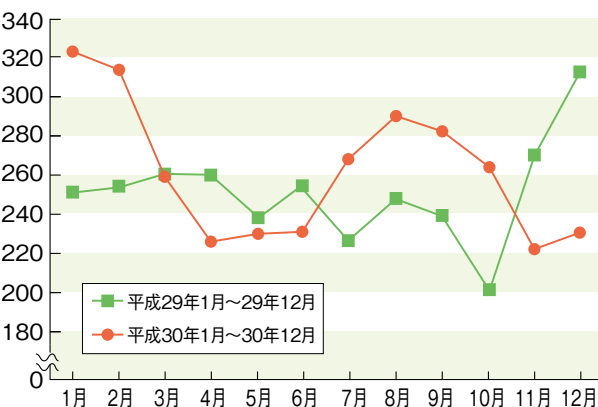
パレシヨは、北海道・鹿児島などが中心の出荷となります。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

タマネギは、北海道に加え静岡からの出荷があります。出荷量は前年をやや下回る見込みです。

店頭

寒い日が続く、鍋商材が店頭に並びますが、徐々に春らしい明るい色彩の野菜が増えてきます。タラの芽、フキノトウ、山ウドなどの山菜類や、ナバナ、ソラメやグリーンピース、新タマネギが陳列されるようになります。色合いの野菜が店頭をにぎわすようになります。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産野菜価格



果 実

イチゴ・かんきつ類・リンゴなどが中心

概況

2月の果実はイチゴ・かんきつ類・リンゴなどが中心の品目展開となります。

ミカンは、静岡・長崎などが中心の出荷となります。前年は平年を大きく下回る出荷量となりましたが、今年は引き続き順調な出荷となる見込みです。

伊予柑は、愛媛が中心の出荷となります。品質も良く、前年をやや上回る出荷量となる見込みです。「不知火」は、熊本・愛媛が中心の出荷となります。2月中旬からは露地物の出荷も始まります。出荷量は前年をやや上回る見込みです。

リンゴは、青森の貯蔵物の出回りとなります。出荷量は少なかった前年を下回る見込みですが、生育期間中の台風の影響により、傷果などの発生が例年より多くなる見込みです。

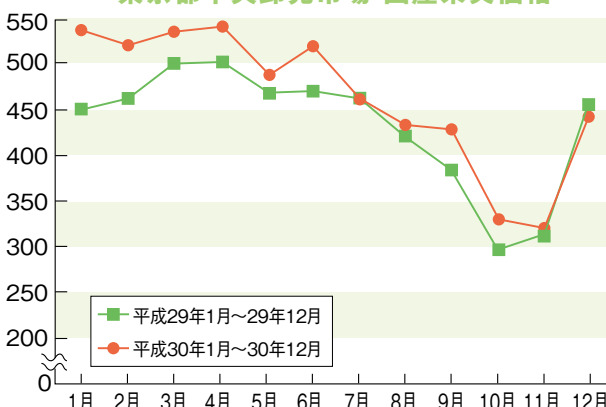
イチゴは、栃木・福岡・佐賀・静岡などが中心の出荷となります。気温高により1番果の出荷が前進し、1月中旬は出荷の谷となりましたが、各産地とも2月中旬にかけて徐々に増加する見込みです。出荷量は概ね前年並となる見込みです。

キウイフルーツは、福岡・和歌山・愛媛などが中心の出荷となります。全国的に小玉傾向であり、出荷量は前年を下回る見込みです。

店頭

節分・バレンタインなどの催事に合わせた販促企画が設定されます。また、受験シーズンを迎え、風邪予防対策として、果実の提案が活発に行われるとともに、ひな祭りに向けた販促企画の準備を進める時期でもあります。

円/㎏ 東京都中央卸売市場 国産果実価格



主産県 だより

1月は、イチゴ、レタス、トマト・ミニトマト、ブロッコリーの主産県が一堂に会し、作況見通しや販売対策の共有化、消費拡大の進め方について協議しました。今後も主産県による情報交換会などを定期的で開催し、出荷情報や販売情報の共有を図ります。

地元高校生の
アイデア詰まった

「受験生応援弁当」を発売

石川県本部関連会社の株式会社米心石川が、地元の高校生のアイデアを商品化した「受験生応援弁当」を1月11日に発売しました。【石川県本部】

企画・考案したのは、県立金沢錦丘高校の生徒たち。授業の中で、2年生のチームが地元の食材を使った地域貢献をテーマに、受験生を応援する「受験生応援弁当」を企画し、献立やパッケージ等を考案しました。

この弁当は、石川県の新品種のお米「ひやくまん穀」や加賀野菜「加賀れんこん」など石川県産の食材を中心に作られています。また、「結果を結ぶ」にちなんで「おむすび」や、「食べておくとパス」という意味を込めて「たこさんウィンナー」など、高校生の柔軟な発想をもとにした「げん担ぎ」の献立となっています。

JR金沢駅金沢百番街あんと内の「Beishin おこめキッチン」にて、3月17日まで販売しています。

受験生はもちろんのこと、より多くのお客さまに味わっていただきたいと思います。金沢駅へお立ち寄りの際はぜひお買い求めください。



「受験生応援弁当」
(税込780円)



「受験生応援弁当」を
開発した金沢錦丘高
校の生徒たち

JA全農
ZEN-NOH

JA全農
オフィシャル
アプリ

トピックス ポイント クーポン

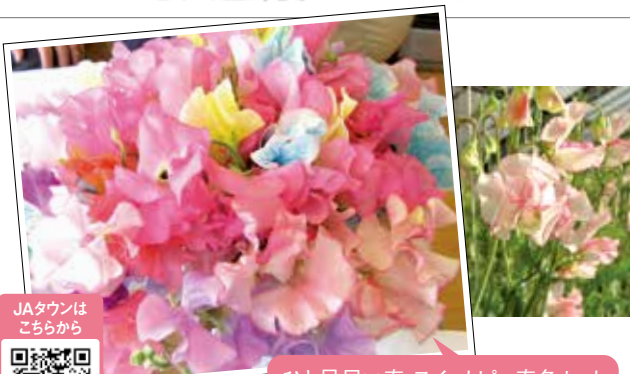
「食と農」の情報を広く消費者へ! スマホアプリを公開中

JA全農のイベントや新商品に関する最新情報がさらに充実! 作動環境: スマートフォン iOS8以上 Android4.3以上



JAタウン ショップ紹介

JA全農かながわ



JAタウンは
こちらから



ひと足早い春 スイートピー春色セット
50本入り……4100円

神奈川が生んだ春の風物詩「スイートピー」を紹介します。
湘南エリアの寒川町で農園を営む夫妻が丹精を込めて育てたスイートピーは、見る人の心を癒やす優しいパステルカラーが特長です。
ピンクの吹きかけ模様が可憐な神奈川生まれの品種「リップルピーチ」や、涼しげな淡いブルー色をした同農園オリジナルの品種など、珍しい色もそろっています。

花言葉は「門出・優しい思い出・永遠の喜び」。卒業式のお祝いやフラワーバレンタインに、色とりどりの花束はいかがでしょうか。
※30本、50本、100本の規格を用意しています。

なお、ご紹介した商品は、2/15(金)まで、FAXでもご注文を承ります(ご自宅宛代金引換のみ)。
※天候などによりご希望に沿えない場合があります。

【ご注文方法】①商品名、規格、数量②郵便番号③住所④氏名⑤電話番号⑥FAX番号をご記入のうえ、FAX番号03-5218-2517までご送信ください。
商品代金の他、お届け先により送料がかかります。

JA全農のインターネット ▶ご注文は <http://www.ja-town.com>
ショッピングモール ▶お問い合わせは shop@ja-town1.com

※本誌を通じていただいた注文などで取得した個人情報は、商品等の発送にのみ使用します。